

特別
陳列

よみがえった文化財

—琵琶湖文化館の収蔵品と修復の世界—

2009. 11. 21(土) ~ 2010. 1. 17(日)

主催 滋賀県教育委員会 滋賀県立琵琶湖文化館 滋賀県立安土城考古博物館
後援 朝日新聞大津総局 京都新聞滋賀本社 産経新聞大津支局 中日新聞社 日本経済新聞社大津支局 毎日新聞大津支局 読売新聞大阪本社
共同通信社大津支局 時事通信社大津支局 KBS京都 NHK大津放送局 BBCびわ湖放送 滋賀報知新聞社

明治初期の廃仏毀釈を契機としてわが国で文化財保護の必要性が説かれるようになってから、100年が経過しました。現在、「文化財保護」には保存環境を整えて虫菌害から文化財を守ること、管理を強化して防災・防犯に努めることなど、さまざまな取り組みがあります。

中でも文化財の修復は、直接文化財に手を加えるという点で他の取り組みとは異なる慎重さが要求されるものです。文化財の中には、経年変化によって物体としてその形や材質を保持することが難しくなっているものも多く、そのまま放置しておけば崩壊、損壊してしまう恐れもあります。

それを防ぐ最終的な手段となるのが「修復」です。多岐にわたる修復技法の中からもっとも適した方法で修復は行われなければならないのですが、これも手法を間違えれば文化財としての価値を損なうこともあります。

琵琶湖文化館の収蔵品を中心とする修復された文化財を公開し、あわせて修復の工程や作業の様子などをパネルで詳しく紹介するこの展覧会が、正しい文化財修復についての知識を皆さんに広く知っていただく機会となれば幸いです。

美術工芸品と修復

文化財としての美術工芸品には絵画、彫刻、工芸品、書跡・典籍、古文書、考古資料、歴史資料がある。このうち、琵琶湖文化館では絵画、彫刻、工芸品、書跡・典籍分野を中心に取扱っている。

琵琶湖文化館にとって「修復事業」は、その活動における重要なキーワードの一つとなっている。平成元年（1989）以降、館蔵品の修復事業を継続的に行っており、応急的処置を含めるとこれまでに50件以上の作品がよみがえった。また、寄託されている一部の重要文化財や県指定文化財は国や県等の補助を受けて修復も行われている。さらに、琵琶湖文化館は県内に所在する数々の文化財の修復の相談に応じて、その監督・指導を行ってきた。

修復するにあたって、もっとも大切な判断は「するのか、しないのか。」という根本的な部分である。その上で修復するとなれば、全体修理なのか部分修理なのか、解体・解装をするのかしないのか、などその方針を詳細に検討することになる。そして方向性が見極められれば、次に具体的な作業の過程で生じてくる細かな課題をどのようにクリアしていくのか、作品の学術的価値や状態などを勘案しながら、文化財修復を行っている修復業者と話し合いを重ねることになる。すぐに結論が出れば良いのだが、往々にして頭を悩ませることもある。その中で、今、考え得る最善の方法を選択して修復は行われるのである。

その根本理念は概ね「昔の姿に戻す」「修理の可逆性」といった言葉で表現されることが多い。「昔の姿に戻す」というのは復元を目的とするかのように見えるが、そうではない。あくまでも制作当初のオリジナルな部分を重視し、これに損傷を与えたり、支えるべき力がない場合は取り除くということであり、オリジナルの損傷を進行させないことを主眼とした考え方である。また、「修理の可逆性」は修理後100年、200年を経たのち、再び修理することが可能であるということ。文化財の修復では基本的に伝統的な材料を用い、十分な経験に基づいた技術を駆使する。残念なことに所有者がほとんど予備知識のないまま修復を行った結果、文化財としての価値を損なうことになった例も多い。これらの根本理念は、「文化財の現有する価値を存続させる。」との目的を達成するためのものである。

ここで、修復の成った文化財について具体的に見ていきたい。まずは、修復前の損傷の様子である。「北村季吟詠草」は、表具が全体に緩んで裏打ちの紙が浮きを見せる（写真1、2）など、末期的な症状を呈していた。このため修復することになったのだが、もとが茶掛け表具であったことから、新表装も同じ表具とした。「地藏菩薩像」（写真3）は画面全体にひどい折れが見られ、絵の具も剥落が進んでいた。「琴客倒門図」も全体にきつい折れが見られた。このまま放置すれば状態が悪化することは目に見えており、文化館としては資料取り扱いの際の危険度が増すばかりでなく、鑑賞の妨げにもなることから、修復を実施することにした。



2 北村季吟詠草
糊離れが進む
掛け軸

1 北村季吟詠草
(修理前)



3 地藏菩薩像
(修理前)

薬師十二神将像（滋賀県指定文化財、安土町・新宮神社蔵、写真4）は平成19・20年度（2007・2008）に県教委の監督・指導により修復が行われた（財団法人住友財団助成金）。これも画面に折れが進み、ここから絵の具だけでなく、絵絹までも剥落している個所があった。またここに至るまでの間に尊像を切り取って貼り直したり、過去の修理によって歪みが生じたり（写真5）した結果、像容を損ねているものもあった。修理後は落ち着きのある表具裂に取り替えられ、画面も以前に比べて引き立つようになった（写真6）。

これらの修理は解装して全体を表具し直したものの（画面を切り取られた旧表具から旧軸木を外す、写真7）だが、「猪図」「秋草群虫図」のように弱った紐を取り替えたり、「蛭図」「山水図」のように取れたり失われたりした軸首を取り付けるといった応急修理もある。

修理に際しては「薬師十二神将像」や「花鳥図」などのように旧軸首をそのまま利用したり、表具裂の状態が良好で作品に相応しく、新しく取り替える必要がない場合、あるいは表具裂自体にも歴史的・美術的価値が認められる場合は、裂を元使いとすることもある。さらに、箱書きがある場合は、旧箱から取り外して新箱に収める。

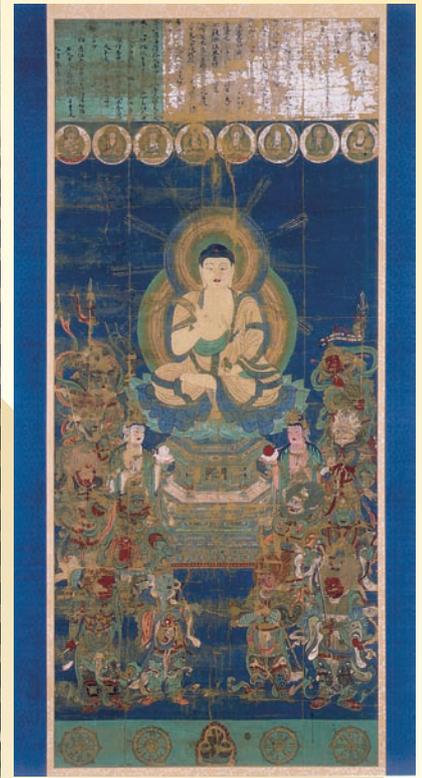
箱は一重の場合と二重の場合がある。二重箱は、桐製の箱をさらに黒漆塗の箱に収めるという収納方法である。構造的により虫菌害から内容物を保護することが出来る。文化館の館蔵品を修理する場合には、保存環境を一定のレベルを保っているという前提にたち、桐材の一重箱に紙箱を被せる仕様とすることが多い。（写真8）

彫刻においても全体的に解体修理、部分解体修理、剥落止めなど文化財の損傷状況によって修理の度合いが異なる。「薬師如来坐像」（写真9）（守山市指定文化財、守山市・慈眼寺蔵）は全体的に虫損が進み、矧ぎ目も緩んできていたことから、全解体による修理がおこなわれた（写真10）。この修理の途中で、本像が制作当初は素地仕上げであったことが判明したことは記憶に新しいが、修理は通常では知ることができない情報をわれわれに伝えてくれるのであり、対象文化財をより深く理解するためのまたとない機会でもある。

このため、修理中に明らかとなった事項を含む一切の修理の施工内容や工程は記録しておかなければならないのであり、この記録が修理対象文化財の新たな資料となって後生に引き継がれ、来るべき次の修復時の基礎資料となるのである。



4 薬師十二神将像（修理前）



6 薬師十二神将像（修理後）



5 薬師十二神将像
絵絹が動いたことで、眼の位置にずれが生じている。



7 琴客倒門図
本紙を取り外した旧表具から軸木を外す



9 慈眼寺蔵・薬師如来坐像（パネル展示）



10 解体された慈眼寺蔵・薬師如来像



8 収納箱
紙箱（右）と桐箱（中）とその蓋（左）



よみがえった文化財

—琵琶湖文化館の収蔵品と修復の世界—
2009. 11. 21 ~ 2010. 1. 17

出品目録

前期11/21 (土) ~ 12/27 (日) 後期1/5 (火) ~ 1/17 (日)

番号	指定区分	作品名	員数	時代	所有者	前期	後期
1		木造説相箱	一函	室町	琵琶湖文化館	○	○
2		屏風構造見本	六曲一隻	現代	琵琶湖文化館	○	○
3		紙本銀地著色桜草鹿図	六曲一双	江戸	琵琶湖文化館	一隻	一隻
4		紙本淡彩大津絵図 紀楳亭筆	二曲一隻	江戸	琵琶湖文化館	○	○
5		洋犬図 波多野等有筆	二曲一隻	江戸	琵琶湖文化館	○	○
6		絹本著色地藏菩薩立像	一幅	室町	琵琶湖文化館	○	○
7	△	絹本著色薬師十二神将像 新箱	一幅	南北朝	新宮神社 (安土町)	○	作品は パネル 展示
8	△	絹本著色薬師十二神将像旧表装関係資料	一括	江戸	新宮神社 (安土町)	○	
9	△	弥天永釈墨跡のうち 龍井庵常住注文	一幅	室町	永安寺 (東近江市)	○	
10	△	弥天永釈墨跡 永源寺文書目録	一幅	南北朝	永安寺 (東近江市)		○
11		絹本淡彩楽山楽水図 塩川文麟筆	二幅	明治	琵琶湖文化館	○	○
12		絹本著色新六歌仙図 狩野常信筆	一幅	江戸	琵琶湖文化館	○	○
13		絹本著色人麿像 旧箱蓋	一幅 一枚	江戸	琵琶湖文化館	○	○
14		絹本著色花卉図 憚南田筆	一幅	中国・清	琵琶湖文化館	○	○
15		絹本著色琵琶湖図 円山応震筆	一幅	江戸	琵琶湖文化館	○	
16		絹本著色柳汀双禽図 宋紫石筆	一幅	江戸	琵琶湖文化館		○
17		絹本墨画山水図 広瀬柏園筆	一幅	江戸	琵琶湖文化館	○	○
18		紙本墨画馬図 中林竹洞筆 旧表装 旧中軸 旧箱 旧一文字 新箱	一幅 一幅 一本 一函 一組 一函	江戸	琵琶湖文化館	○	○
19		絹本著色飲中八仙図 月僊筆	一幅	江戸	琵琶湖文化館	○	○
20		絹本著色花鳥図 中林竹洞筆 旧表装	一幅 一幅	江戸	琵琶湖文化館	○	○
21		紙本淡彩琴客到門図 田能村竹田筆 旧箱	一幅 一函	江戸	琵琶湖文化館	○	○
22		絹本淡彩猪図 松村呉春筆	一幅	江戸	琵琶湖文化館	○	
23		紙本淡彩蘭竹瑞芝図 貫名海屋筆	一幅	江戸	琵琶湖文化館		○
24		絹本淡彩山水図 小田海僊筆	一幅	江戸	琵琶湖文化館		○
25		絹本墨画蛸図 塩川文麟筆	一幅	江戸	琵琶湖文化館		○
26		紙本著色日吉祭礼図	一卷	江戸	琵琶湖文化館	○	○
27		絹本著色秋草群虫図 長谷川玉峰筆	一幅	江戸	琵琶湖文化館		○
28		紙本淡彩時雨図 横井金谷筆	一幅	江戸	琵琶湖文化館	○	
29		絹本著色鶏兔図 森徹山筆	二幅対	江戸	琵琶湖文化館	○	
30		増田長盛・石田三成水論裁許状	一幅	江戸	琵琶湖文化館		○
31		紙本墨書北村季吟詠草	一幅	江戸	琵琶湖文化館	○	○



よみがえった文化財

—琵琶湖文化館の収蔵品と修復の世界—
2009. 11. 21 ~ 2010. 1. 17

出品目録

前期11/21 (土) ~12/27 (日) 後期1/5 (火) ~ 1/17 (日)

番号	指定区分	作品名	員数	時代	所有者	前期	後期
32		木造十八羅漢像 十六軀のうち 囉怛羅尊者像 半吒迦尊者	二軀	江戸	妙応寺 (東近江市)	○	○
33	□	木造薬師如来坐像	一軀	平安	慈眼寺 (守山市)	パネル展示	
34		仏像構造見本 (一木造)	一軀分	現代	琵琶湖文化館	○	○
35		仏像構造見本 (寄木造)	一軀分	現代	琵琶湖文化館	○	○
36		装潢用修復材料	一括	現代	坂田墨珠堂	○	○
37		装潢用修復材料	一括	現代	藤本松雲堂	○	○

◎は重要文化財 △は滋賀県指定文化財 □は市町指定文化財を示す。